

# 2021 年度事業報告書

- 1、全体の報告(成果と課題)…1
- 2、事業報告…2
  - A フードバンク事業…2
  - B 総合相談事業…5
  - C 災害救援…6
  - D 広報、他団体との活動…6
- 3、財政・組織運営…7

## 1. 全体の報告（成果と課題）

### ①コロナ禍で加速、フードバンク（FB）利用件数2年で2倍

コロナ禍において「困窮者」と「困窮者を助けたい人」を結ぶ受け皿として機能した。この2年間で、相談件数は2倍の1,658件、食品寄付（40.1t）と食品支援（39.3t）はともに4倍に増えた。困窮当事者だけでなく行政や社協の現場担当者からの「フードバンクがあってよかった」の声に支えられ、国内で希少な相談援助機能があるフードバンクとして「私たち自身によるセーフティネット」が機能したことを証明する結果となった。

しかしながら、県内の困窮者の数は減少していない。当事者・担当者だけではなく、広く社会にFBを知ってもらい、ともに協力していくことが必要である。

### ②休眠預金助成事業の実施団体として採択された

休眠預金助成事業の「コロナ一人にさせない事業」の助成金を獲得し、食品配布会、県内のフードバンク団体や支援機関を集めた研修会、県内初のFB情報誌を創刊、増える食品受け入れに対応する清住倉庫の確保の成果を得ることができた。しかし、事業実施スケジュールに追われ、継続のための資金調達体制まで手が回らなかった。

助成金事業と事業を継続するための資金調達の両立を確保して行うことが必要である。

### ③食品配布会の効果

食品配布会では、助成金を得て11回、延べ1,353世帯に食品を提供することができた。食品と一緒に生理用品を提供したり、外国籍の人を対象に国際交流協会で食品を提供したことが、マスコミに取り上げられ一定の広報効果をあげることができた。

食品配布会は、困窮者に食品を提供するだけでなく、他の組織を巻き込み活動できることである。済生会宇都宮病院や報徳会宇都宮病院などと食品集めや相談対応を協働する体制ができて、食品を取りに来た人の相談を受け、その場で医療機関につなげることができたなどの成果を得ることができた。

しかし、配布会で必要な食品は、不足しがちな食品なので、これに特化する食品を集めの体制を確立する必要である。

### ④常勤職員と学生インターンの採用

本会の非常勤職員を常勤職員として採用したことにより助成金獲得やFBの事務能力が高まった。しかし、増え続ける需要や事務作業に対応するには人員が十分とは言えない。安定した人員確保の財源を増やすこと

が急務である。更に運営スタッフボラを増やすため、仲間意識の向上や共に学ぶ機会を作り巻き込んでいく工夫が必要である。

9月から3月の間、学生インターンを2名採用した。FBの仕事を経験しながら、自分たちでテーマを決めて活動するプログラムを行った。サンタ de ランの動画作成で活躍したり、高校生に向けてFBの出前授業を行いマスコミにも取り上げられる成果を上げることができた。

#### ⑤相談の件数の増加への対応

フードバンク利用者は542世帯と増加し、相談内容も長期化、複雑化した困難事例が増え、相談対応が追い付かない日もでてきた。相談体制を強化するために、新たに社会福祉士の有資格者3名を相談員として配置することができた。社会福祉士と既存の相談員で多種多様な制度にとらわれない相談支援に取り組むことで、民間ソーシャルワークの一角を担う相談体制の下地作りができた。

#### ⑥認定NPO法人の申請

2期にわたり3千円の寄付を200人集めることができ、認定NPO法人を申請する資格ができた。本会では前期にも達成していたが、事務力の不足により認定NPO法人の申請に至らなかった。

次年度の最重要項目として認定NPO法人の取得に取り組む必要がある。

認定NPO法人になると、寄付者が税額控除を受けられることができるので寄付金を受けやすくなる。

#### ⑦泉が丘支所の整備完了

とちぎVネット主催の「来年どうするか会議」の参加をきっかけに、泉が丘支所の運営のボランティアチーム泉が丘おたすけ隊が結成されている。2期にわたって泉が丘支所の改修が完了し、本格的に使用可能となっている。来期は学生や地元の人が集える場として稼働していくことが課題となる。

## 事業報告 B.【フードバンク】

### (1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（FB）活動は、今期は**40.1**トンの食品受贈があった。企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はP2に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4月	1878	3174
5月	2338	2647
6月	3284	3434
7月	1638	2468
8月	2438	2961
9月	4549	3651
10月	6075	2947
11月	3425	3833
12月	6665	3342
1月	2361	4684
2月	2394	3606
3月	3119	2582
合計	40.163	39.329
前年 (2019)	36,724	37.135
増減	+3,439	+2.194

コロナ禍でバイト、日雇い、非正規で就労している人の生活が苦しくなってい

ることで、食品配布会を対面及び宅配便を使って 11 回実施、1,353 世帯に配布した。配布会に伴いアンケート等で大学生からはコロナ禍前は 3 食食べることができていたが、コロナ禍においては 2 食しか食べることができない人がいることを実感した。その他外国籍・外国ルーツの人たちについても困窮している人が多いことが判明した。

食品配布会：11 回

1.4/10: 84 セット 手渡し 2.5/15 72 セット 手渡し 3.6/26:201 セット 手渡し 4.8/7 : 75 セット 手渡し 5.9/11: 75 セット 宅配 6.10/13 120 セット 宅配便 7.11/12 200 セット 宅配 8.12/4 121 セット 9.1/15 120 セット 宅配便 10.1/29 120 セット 宅配便 11.2/11 120 セット 宅配

### ① フードドライブの実施、及びきずなボックスの設置

フードドライブの食品受口として食品受付箱（以下：きずなボックス）を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の 26 か所に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、今期はコロナ禍の影響もあり 2 か所増えたのみだった。

フードドライブ (FD) を定期的実施した（とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク）。また市内・光琳寺では毎月 1 日に境内で行うラジオ体操時に FD を実施した。3 月は新型コロナウイルスの影響で全部中止となった。

一方で FD での食品量増加に伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される飲料や冷凍食品など「ストック食品の優先順位が低い」ものの受け入れはほとんどしなかった。今後も、コロナ禍の影響で困窮者が増えることが予想される。倉庫、ボランティア、食品、資金の調達が急務になっている。

「きずなボックス」・「食品受付窓口」設置場所

No	設置場所	団体名(住所)	No	設置場所	団体名(住所)
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区 民生委員・児童委員協議会（宇都宮市戸祭 1 丁目 10-25）	14	さくら・ら心療内科	（宇都宮市桜 3 丁目 1-36）
2	とちぎコープ越戸店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合（宇都宮市越戸 3 丁目 12-9）	15	協立診療所	栃木保健医療生活協同組合（宇都宮市 宝木）
3	とちぎコープおもちゃのまち店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合（壬生町至宝 3 丁目 12-31）	16	ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合（宇都宮市 ）
4	とちぎコープ鶴田店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合（宇都宮市鶴田町 861）	17	はやぶさ交通(株)	（宇都宮市江曾島町 1 1 8 1 -3）
5	ヒカリ座	ヒカリ座（宇都宮市江野町 7-1-3）	18	しのいの郷	社福）房幸会（宇都宮市上小池町）
6	やさいだもの村桜通り店	（宇都宮市松原 2 丁目 2-51）	19	末日聖徒イエス・キリスト教会	（宇都宮市幸町）
7	宇都宮市役所・ゴミ減量課	宇都宮市（市役所 12 階）	20	浄鏡寺	（宇都宮市塙田 2 丁目）
8	光琳寺（毎月 1 日のみ）	（宇都宮市西原 1 丁目 4-12）	21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロード AR（宇都宮市伝馬町）
9	恵光寺	（宇都宮市下栗町 2255）	22	栃木県ボランティア活動振興センター	（宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階）
10	栃木県社会福祉士会事務所	（宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階）	23	宇賀神新聞店（集金日に回収）電話 028-625-0870	（宇都宮市上戸祭 2 丁目 1-45）
11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	（宇都宮市間屋町 3 1 7 2-1）	24	ファミリーマート（五代二丁目店）	（宇都宮市五代二丁目）
12	JU 栃木	（宇都宮市上欠町 1021-3）	25	ファミリーマート（緑野店）	（宇都宮市緑野町）
13	ミヤラジ	（株）宇都宮コミュニティーメディア（宇都宮市江野町 7-8）	26	一社）南栃木社会福祉士事務所	栃木市沼和田

フードドライブ：20 回

・毎月 1 日(金)光琳寺 FD(きずな BOX 設置)12 回

・11/7：とちぎコープ越戸店 FD（石江、釜）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/4：とちぎコープおもちゃのまち店FD（石江、徳山）</li> <li>・5/16：地球思いやりマルシェFD（徳山）</li> <li>・5/18：いちごハートネットFD</li> <li>・10/2：ECO テック&amp;ライフ栃木 2021 FD</li> <li>・11/14：地球思いやりマルシェFD（徳山）</li> <li>・10/8：JU 栃木チャリティーオークションFD（木下）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/27：ハーベストウォーク（伊東、白鳳大生2名）</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

## ②FB食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「奨学米プロジェクト」を実施した。月1回の米の他に、合間に野菜・パンの配達もボランティアによって実施した。母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちは毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働きつめの母との接点の時間がないことが原因である。引き続き女性支援ボランティア等を育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項	
<p>1、目的 2010年度の国の調査では、母子家庭のうち65%が年収180万円以下であり、夫婦2人世帯の平均年収では300万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は16.1%であるが母子家庭の貧困率は54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない（頼らない）人も多い。さらに2014年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は3割であり、非常に少ない。</p> <p>こうしたことから、FBうつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。</p> <p>母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係=縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。</p> <p>2、対象者 ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯 ・低所得（例/3人家族で月収20万円、年240万以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。 ・生活保護世帯は対象外とする。</p> <p>3、内容 ①1か月白米10-30kgの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。</p>	<p>②対象世帯数20世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。</p> <p>③米保有量は4.8t（10kg×12月×20世帯）</p> <p>④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。（場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。）</p> <p>⑤配送日は原則として、火曜日13:30-17:00.対象者の都合が悪い場合は要相談。</p> <p>⑥受付はVネット事務所（028-622-0021）で行う。</p> <p>⑦ボランティアは5人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。</p> <p>⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面FB大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。</p> <p>⑨配送社はFB所有の車両やボランティアの自家用車とする。</p> <p>4、広報 ・米募集…インターネット及び、チラシを作成しJAやコープ等に営業。 ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。DV関係NPO、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。 ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。 （福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体）</p>

## ③広報

きずなセットと「生理用品」をセットで配布したことが大きな反響を呼び、マスコミなどを通じてフードバンクの宣伝を高め一定の成功を収めることができた。情報拡散効果が強いtwitterを中心にSNSでほぼ毎日、情報を更新した。フォロワー数も3500人以上になった。

## ④チャリティウォーク県北21、宇都宮22の運営と参加

FBの支援者の拡大と寄付金造成のためチャリティウォーク（CW）を実施した。今期からは「とちぎコミュニティ基金」主宰で実施し、他団体とともに実行委員会に参加した。

## B. 【総合相談事業】

### (1)総合相談事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」SOSニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別SOSの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

#### ①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、FBうつのみやでのSOS対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「個別のSOSに同行支援する方法」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ( )は住所不定	世帯の人数	男/女
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身：271、2人：51、3人：26、4人：13、5人：3、6人：2、7人以上：0	261/105
2020年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身：368、2人：74、3人：36、4人：10、5人：4、6人：0、7人以上：3	340/155
2021年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28(5)	単身：377、2人：75人、3人：62人、4人：17人、5人：5人、6人：2人、7人以上：4人	353/189
<b>【全世帯】542世帯</b> —2021年度— ●主な困窮の内容(複数)：仕事探し・失業・就職、290 病気・健康・障害 67、住居 9、金銭管理・所持金無し 393、精神疾患・人間関係など 34、日々の生活(低年金)212、債務(家賃滞納など含む) 37、子育て・介護 10、DV・離婚など 7 ●生活保護の世帯数： 受給利用中：88、手続き中：38 ●本会までの経路：自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など) 163、社協(県内社協含む) 51、宮ハローワーク 13、地域包括支援センター13、NPO1、ネット・テレビ 28、その他 83					<b>【住居なし】24世帯</b> ●男女比は、男 20：女 4 単身 24世帯 ●困窮の内容(複数) 仕事探し就職 8、ホームレス 19(うち車上生活 2、移動中 4)、住居 1、精神疾患・人間関係 5、収入生活費・低年金 4、病気・健康 3、離婚 1、孤立 3 <b>【女性相談者】189世帯</b> ●単身 86/世帯持ち 103(内、母子家庭 2-子育て世代 2) ●困窮の内容(複数)：DV離婚など 5、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 3、金銭管理不能・債務 23、DV1、無・低年金 1、子育て・介護 1		

「フードバンク+社会福祉士」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積むことができた。今期の支援件数は542件(世帯)のべ1659回と、回数は前期の1.28倍になった。「個別SOSへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

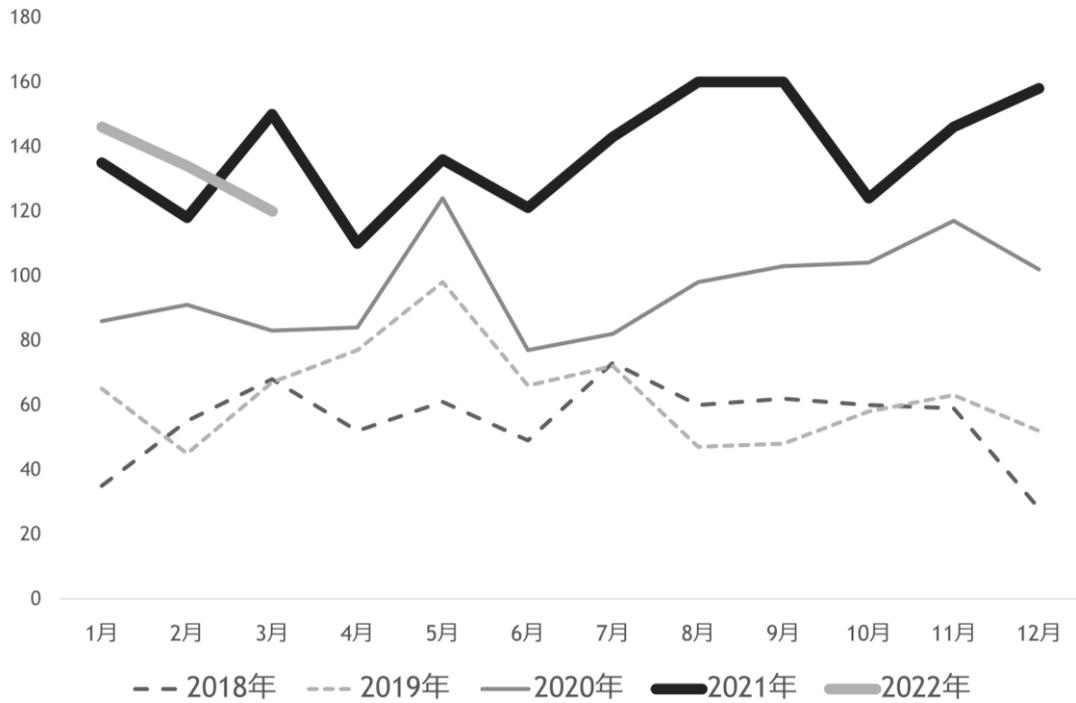
奨学米プロジェクトは23世帯(のべ60回)、奨学米524kg、食品486kg、野菜配送41回となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

表1は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯(推定)あり、掘り起しが必要である。

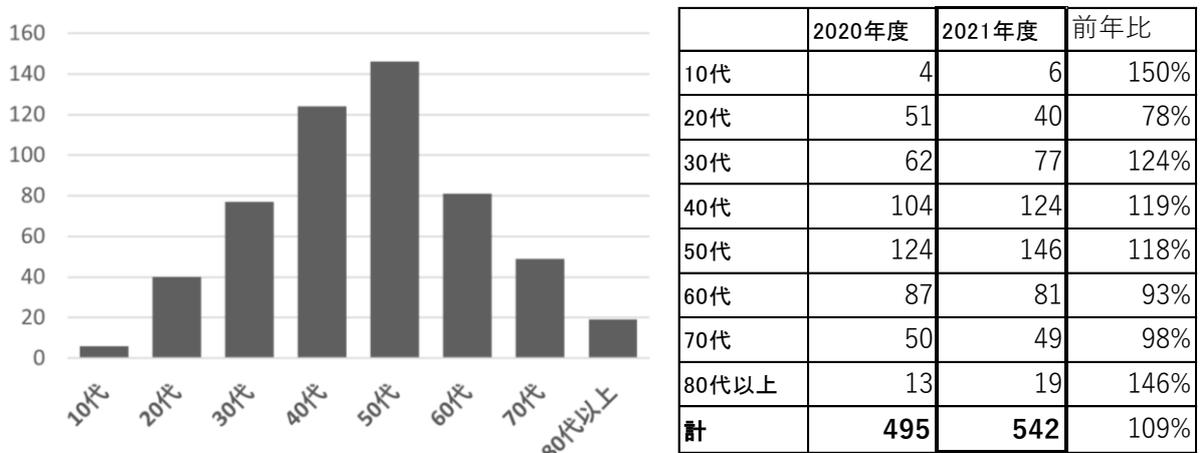
表2では、2018年度から2021年度のフードバンク利用回数を月別に表した。2021年度は前年度、全々年度に比べどの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

【表2 フードバンク利用回数（月別：2018～2022年度）】

※2018年、2019年は棒グラフで表示



【表3 世代別利用者数（2021年度）n=542】



## C. 【災害救援・復興支援活動】

### (1) 救援・復興支援事業（災害救援事業）

九州の被災地に米を180kg送るのみにとどまった。遠隔地の災害の場合、運送コストが高くなってしまいうので、最寄りのフードバンク団体との連携体制を作る必要がある。

## D. 【広報、他の団体との活動】

### (1) ボランティアとNPOに関する啓発・普及事業

#### ① 『フードバンク通信』の発行

『フードバンクうつのみや通信』年6回発行した。

「今月のSOS」記事など4ページに印刷し、編集はVネット職員が行なっている。

#### ② 県内初の「フードバンク情報誌」の創刊

「フードバンク情報誌」を昨年度3月に創刊した。創刊号は県内のフードバンクを紹介した内容となった。年1回から2回程度発行予定である。

#### ③ 「みんな崖っぷちラジオ」の参加

コミュニティFM「宮ラジ」でVネットが持っている放送枠「みんな崖っぷちラジオ」（毎週火曜日19時～20時）で、月1回放送に参加した。フードバンクに関する話題についての放送に学生パーソナリティーが関わることで、客観的な反応や意見をもらえる場となった。

#### 【番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生司会
1	4/6	まちの保健室	岡田ケイ/地域包括支援センターきよすみ	徳山、伊東
2	5/4	視覚障害者の作業所	佐久間佳子/とちぎライトセンター	徳山、小浜
3	6/8	不登校支援と私	吉成/ウエーブ	徳山、田中
4	9/1	F B ボランティア	大森敏臣（JU栃木）	曾根、小熊
5	7/13	フードバンクをやってみて	高沢/フードバンクあしかが	徳山、佐藤
6	8/10	チャリティウォーク	高田誠/チャリティウォーク	徳山、田中
7	9/14	不登校児のための居場所	芳村/ひよこの家	徳山、佐藤
8	10/12	若者支援	湯本/若者サポートステーション	篠原、田中
9	11/2	街中の身近な保健室	渡邊カヨ子/NPO法人みんなの保健室	徳山、櫻井
10	12/7	フードバンクのインターン生	伊藤和樹、寺田啓人/宇都宮大学生	伊東、櫻井
11	2/1	「協同労働」多様な働き方	小白井加代子/ワーカーズコープ	徳山、鈴木
12	3/1	フードバンクを応援する新聞店	宇賀神新聞店	徳山、氏家

#### ④ 「サンタ de クリーン&ウォーク」の参加

「サンタ de クリーン&ウォーク」に寄付先団体として参加した。当日は約300人以上集まった。実行委員会は4月～1月の10か月間、17回参加した。各地で様々な参加と協力の輪が広がった。結果的に参加者、会場付近を通行する人や地元の人たち、そしてコロナ禍でも支援をよびかける必要性が伝わり、大きなインパクトを与えるものとなった。本会においても目標寄付額を達成することができた。

### (2) 泉が丘支所の活用

泉が丘支所の2階を整備して使用するため、「泉が丘おたすけ隊」が結成された。中心メンバーはフードバンクうつのみやのボランティアととちぎVネット内のボランティアチームVレンジャーであり、活動時は白鷗大学のボランティアサークルや宇都宮大学の学生、多世代のボランティアが集まった。

## 3. 財政・組織運営

### (1) 会員

会員数は203人（団体8、正43、賛助152）、会費は143万円になった。会員数は56人増である。

### (2) 寄付

年間寄付額は433万円になった。今期はとちぎコミュニティ基金（チャリティウォーク、サンタ de ラン）コロナ禍等の寄付が多かった。

### (3) 助成収入

助成金は628万円となった。バランスのとれた財源構成が重要だが、今後は困窮者支援の委託事業も視野に入れることが必要とされる。

### (4) 組織

#### ① 会員総会

正会員・団体会員による会員総会は5月30日に実施した。

定期会員総会は正会員31人中22人出席（うち委任状18人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月26日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

#### ② 来年どうするか会議（創出会議）、来年これしたいコンペ（企画会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考えるとちぎVネット主催の来年どうするか会議に参加した。

部門を超えて人が交わることで新たなアイデアやチーム（泉が丘お助け隊）を生み出すきっかけになった。

来年どうするか会議に続き、事業を行うのに必要な予算を話し合うために来年これしたいコンペに参加した。予算の話よりも事業とボランティアのマッチングが主体の会議になった。

月日	会議名/出席人数
11/20	来年どうするか会議 / （進行：宮坂）
3/12	来年これしたいコンペ / （進行：小澤）

#### ③ 理事会

理事会を1回開催した。

月日	議題/出席者
5/26 監査	生野
5/27 第1回理事会	① 2021年度事業報告・決算について ② 役員の改選について 徳山、木下、伊東、曾根、武井、大森、石江、小澤
2/18 第2回理事会	① 2021年度上期事業報告について 徳山、木下、伊東、小澤、曾根、大森、武井、羽石
3/30 第3階理事会	① 2022年度事業計画・予算について ② 事務局の人事について 徳山、木下、伊東、小澤、曾根、大森、武井、羽石

## ⑤フードバンク会議・ケース検討会

毎週木曜14時から、フードバンク会議を49回開催した。業務連絡、課題解決、懇親の要素を含め行った。ケース検討会（Vネットと合同）は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。

フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：50回 4/1、4/8、4/15、4/22、4/29、5/6、5/13、5/20、5/27、6/3、6/10、 6/17 6/25、7/1、7/8、7/15、7/29、8/5、8/19、8/26、9/2、9/9	9/16、9/23、9/30、10/7、10/14、10/21、10/28、11/4、11/11、11/18、 11/25、12/2、12/9、12/17、12/23、1/6、1/13、1/20、1/27、2/3、2/9、 2/17、2/24、3/3、3/10、3/17、3/24、3/31
●ケース検討会：4/7、4/21、5/19、6/2、6/16、7/7、7/21、8/4、8/18、9/1、9/15、10/6、10/20、11/3、11/17、12/1、12/15、1/5、1/19、 2/2、2/16、3/2、3/16	

## ⑥ボランティア説明会

毎週土曜日 13 時よりボランティア希望者に対して、フードバンクの基礎的なことを理解してもらうためボランティア説明会を実施した。66 名の人が参加した。

## ⑦泉が丘お助け隊会議

泉が丘支所の2階を整備して使用するため泉が丘お助け隊が結成され、数回打合せを行い支所の回収が完了した。

## 監査報告

2021年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2022年 月 日 監事